

2021年7月
No.63

夏号

公益財団法人

こじけと緑の会

Contents

- 人家周辺や農地のナメクジたち
評議員 金安健一
- 大熊理事「土木学会功績賞」
受賞
(2021.5.31新潟日報掲載記事)
- 活動紹介
- 助成先紹介
・昆虫はかせネットワーク
・斎藤達也 氏
- 8・9月のプログラムのご案内



マスク着用で自然観察 (2021.4.24春の里山に親しむ会)

人家周辺や農地のナメクジたち

評議員 金安健一

カトレア、デンドロビウム、胡蝶蘭などの栽培を楽しんでおられる方は多いのではないのでしょうか。私は、比較的栽培が容易で開花期間の長い胡蝶蘭が好きで集めている。長い冬を終え、5月中旬に胡蝶蘭を屋外に出し栽培を開始すると、毎年のように新葉や根がかけられる。慌てて鉢底の裏側を見ると薄いクリーム色をしたナメクジがいる。

息しており、*Le. valentiana*は、飛び石的に分布している。



チャコウラナメクジ
Le. Marginata



チャコウラナメクジ
Le. valentiana

鉢底にいるナメクジの体色には、クリーム色や、やや褐色を帯びたものから、汚れたオレンジ色のものまであるが、こげ茶色の縦縞のあるものと、この種より軟体部がやや白色で縦縞が見られない種類がいる。この2種類はどちらも和名でチャコウラナメクジとして扱われている。一般に背に一对の褐色・暗褐色の縦縞を持つ個体は *Lehmannia valentiana*。体色が淡いクリーム色であったり、それよりも白味をおびたりしている個体は *Le. marginata* である。(生殖器の一部である鞭状器や受精囊の形で分類できるが、外見では難しい個体もある)。

Le. marginata は広くヨーロッパに生 (昭和30年) 和歌山県白浜で発見され、瞬く間に全国に広がった。新潟県内に移入した年度は調査資料が無くはつきりしないが、1970年には県下一円で確認されている。だが、その後いつの間にか人家周辺や農地は、*Le. valentiana* に置き換わっていた。2020年の調査では、新潟市、長岡市、糸魚川市などで再び *Le. marginata* が人家周辺や農地で圧倒的に多く、優勢となっていることが判明した。これらの種の他に、県内では昭和初年度ごろに、キイロナメクジが人家の台所などで駆除に困るほど多発していたが、チャコウラナメクジの勢力が増すにつれ衰退し、今日で

はほとんど見られない。一昨年軟体部が黒色のノハラナメクジが連続して転作している水田で大発生したり、今年になって長岡市でマダラコウラナメクジも新たに確認されたりしている。これらは、いずれも外来種で人家周辺など人為的影響の強い場所に生息する。(人家周辺にはもう一種、淡い青褐色の在来種のナメクジがいる)。これらの種は、山野には入らない。山野には、10cmを越える巨大なヤマナメクジ(ダイセンヤマナメクジを含む)や、オレンジ色をした長岡市が模式産地のハナタテヤマナメクジ、青黒色の準絶滅危惧種に指定されているヤマコウラナメクジ、褐色で黒斑のあるオオコウラナメクジが生息し、人家周辺には現れることはない。



マダラコウラナメクジ



キイロナメクジ



ノハラナメクジ

大熊理事「土木学会功績賞」受賞 (新潟日報2021年5月31日付 新潟日报社提供)

大熊孝新大名譽教授が土木学会功績賞



おおくま・たかし 1942年、台湾・台北市生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。新潟大工学部教授を2008年に退官後は、ビュー福島新潟名誉館長などを務めた。著書「洪水と水害をとらえなおす」は第74回毎日出版文化賞も受賞した。新潟市在住。

「国家の自然観」転換を

河川工学の専門家として、脱ダムなど自然との共生を訴えてきた大熊孝新潟大名譽教授(78)が、土木学会の2020年度功績賞と出版文化賞を受けた。集大成ともいえる著書「洪水と水害をとらえなおす 自然観の転換と川との共生」(農文協)が、「社会と自然との関わりをどう構築するか」という土木の本質を問う書籍」と評価された。取り戻すべき自然観などを聞いた。

(報道部・阿部義暁)

著書では明治以降、「国 発電のためダムをいくつも家の自然観」に押し付けられ、「民 造った。しかし磐越西線も衆の自然観」が消失してき 飯山線も電化され、川のたと指摘しています。 恵みは中央に吸い取られて漁業などを通して自然を敬で起こされた。国家の自然いながら謙虚に暮らしてき 観を民衆にこり押しすること。自然との関係性の中で とが續いている」 存在しているという民衆の 一近代化を果した一方 自然観だ」 一近代化を果した一方 存在しているという民衆の 一近代化を果した一方 存在しているという民衆の

地元の魅力生かし共生



②フェンスが撤去され、階段護岸が整備された粟ノ木川。親水空間として生まれ変わった。=2006年、新潟市中央区(大熊氏提供)
③階段護岸が撤去され、フェンスが復元された粟ノ木川

れ、市街地や農地に甚大な被害を各地で起こしている。 「水があふれることを想定した治水が必要だ。堤防を強化するとともに、水害を再認識して、都市の自然防備を整備すれば、洪水があふれてもゆっくりと流れ、土砂や泥を止める。新潟市のような都市でも整備できる。最後のとりではライフジャケットだ。一家に家族全員分あれば、浸水しても救助できるだろう」 「自然との付き合い方をどう転換するといいいですか。近代的思考は合理的や普遍的なものが良いとし

て、足元を顧みっていない。例えば新潟市は素晴らしい川との関係を考えていない。川との関係を見つければ、妥協点を見つければ、市民の意識を変えられ、残念でない。 「しかし、川に落ちたら危ないという声が上がって、(17年に)階段護岸を撤去しフェンスが復元されてしまった。市民の意識を変えられず、残念でない。 「脱ダムを唱えるなど土木の世界では極めて少数派でしたが、土木学会から功績が認められました。 「100年後の研究者が『なぜ、これほどダムを造ったのか』と振り返ったとき、反対する研究者がいなくて、反対するのは我慢できなかった。 町内会や小学校と関わりながら川に親しむ活動をした。国や県で働く教え子には負い目も感じましたが、県が川岸のフェンスを一部撤去し、水辺に下りられる『誇りに思った教え子から普遍的なもの』と連絡があった。教育者としてうれしい」



活動紹介

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大による全国的な緊急事態宣言が出されたため、春の体験プログラムを中止しましたが、今年は感染対策をしながら無事に開催することが出来ました。

1. 春の里山に親しむ会 (2021. 4. 24)

地元越路地域在住の渡辺茂さん(植物同好じねんじょ会)を講師にお招きし、春の自然観察を楽しみました。一昨年ご寄付いただいた「越路の森」で初めての開催となりました。



日本海側に特有のユキツバキ



ユキツバキの葉でぞうりを作りました



観察のためカタクリを掘らせていただきました。
球根までは約20cmでした。



カタクリの球根。かつてはこれでカタクリ粉が作られました。

2. ツリークライミング体験 (2021. 5. 9)

木に設置したロープを使って安全に木に登る「ツリークライミング」。樹上から普段と違う視点で森を見ることが出来る体験です。登った時の達成感はかなりのもので、子どもも大人も木と友達になり、空中散歩を楽しみました。



助成先紹介

昆虫はかせネットワークの活動

鈴木誠治

新潟県は豊かな自然環境を有していること、これまで高名な昆虫研究者を輩出してきた伝統があること、など新潟県と昆虫は長く関係を保ち続けてきました。しかし、いまは新潟県の昆虫の研究者や専門家は減り続けています。

とはいえ、暗い材料だけではありません。相変わらず虫好きの子供は多く、また近年は子供に自然体験をさせたいと思う親も増えてきています。小さい頃は皆虫が好きなのです。しかし、その好奇心は小さい頃に失われ、いわゆる昆虫少年・少女にまでなることは少ないです。新潟県に不足しているのは、そういう子供の好奇心の受け皿であると考え、我々には新潟の昆虫少年少女を育み、未来の昆虫博士を育てようと昆虫はかせネットワークを設立しました。

- ・ムシ好きの子どもたちを育てる
- ・むしはかせ（昆虫少年少女）を育てる
- ・昆虫研究者同士の情報交換の場を育てる

の三本の柱を目的に、観察会、講演会、各種普及活動、研究発表会など

を行っています。

活動の一つを紹介します。まずは虫好きを増やすべしと2019年から新潟市と長岡市で昆虫観察会を行ってきました。すそ野を広げる目的と、昆虫少年少女に育つためには親の理解が必要との考えから、全くの初心者でも参加できる親子参加型プログラムとしました。専門家が網の持ち方など全くの初心者向けから教える、普段気づかないような小さな虫までどういふところにいるか探してみる、昆虫採集を持続的に行うためのマナー教育も行う、と入門者向けでありながら中身の濃い、でも楽しさ重視の観察会です。これをおよそ月一回行い、それぞれの季節の虫を、その虫たちにあった採集法で捕ってみるようになりました。

これら観察会をさらに拡充し、次の段階の講習会も行いたいと「第19回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」に応募、採択されましたが、その直後、新型コロナウイルス感染拡大と緊急事態宣言の発令。予定変更を余儀なくされます。リアルイベントができないならオンラインイベントだ！ということで、ゴールデンウィークにはさっそく緊急事態宣言中に家で過ごすことになる子どもたち向けに、県内の生き物関係者をあつ

めてオンライン発表会「ちょい生き物発表会」を行ったり、観察会をYouTubeでライブ配信するなど新しい挑戦をしました。6月からは感染対策を行いながら観察会も再開でき、2020年は長岡市の観察会だけでも延べ88名に参加していただきました。2021年はさらにパワーアップ、虫好きをむしはかせにすべく、中級編と銘打ったやや専門性を高めた観察会も企画しています。

このほか、他の団体からの観察会や勉強会などの講師なども行うなど様々なことをして、新潟に昆虫少年少女を増やすべく活動中です。本会の目標に興味のある方、一緒にやってみませんか？

<http://konchuhakasenet.com/>



助成先紹介

地域の生物情報の充実を目指して

国際自然アウトドア専門学校
自然ガイド・環境保全学科
主任 斎藤達也

南北に長く地形の変化に富む日本列島では動植物の種組成、個体数あるいは種生態等が地域ごとに異なっています。地域の動植物に関する情報（以後、生物情報と表記）は地域の自然への理解を促し、その保全や利用、教育を考える礎となります。本稿では私が携わった十日町市と妙高市における生物情報の収集調査について紹介します。

市民協働調査による生物情報の収集

十日町市松之山にある十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロコでは、市民とコラボして調査を実施する「市民協働調査」により地域の生物情報を広く収集しています。私は研究員としてキョロコに2016～2018年の期間在籍し、5件の市民協働調査に微力ながら携わりました。特に印象深いのは2007年から2021年現在まで続く「花ごよみ調査」です。本調査は松之山自然友の会との共催であり、キョロコ周辺、松之山温泉散策路、大

松山、大蔵寺高原など様々な場所で開催されています。調査中、参加者の方々はどんどん多様な花を発見していきます。その結果、これまで500種以上の被子植物の開花情報が花ごよみ調査により得られています。これは松之山で得られた植物相・開花フェノロジー情報としては最大級のもので、松之山の生物情報の充実に大いに貢献しています。

市民協働調査は生物文化情報の蓄積にも力を発揮します。2015～2017年に小荒戸集落と共催された「小荒戸自然観察会」では集落で育まれた多様な植物民俗や年中行事が記録されました。2017～2019年、私が企画・運営を担当した「草木染で里山の色探し」では105種の植物、部位などの違いを含めると133パターン染色情報を取ることができました。なお、両調査は第15回および第18回こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金の助成を頂いています。

専門学校の授業内での情報収集

2019年より私は妙高市にある国際自然環境アウトドア専門学校に教員として在籍しています。本校は日本唯一のアウトドア総合校であり、その教育方針は人と自然が共にある

豊かな未来をつくるプロを育成するというものです。私が主任を務める自然ガイド・環境保全学科では、自然解説・ガイド実践などの実習に加え自然環境調査を幅広く行い、地域の生物情報を収集しています。例えば、授業「野生生物調査」では妙高市の里山環境での植生調査、ブナ等の樹木の開花・結実調査、鳥類分布調査、水生生物調査（写真1）等、多様な調査を実践しています。この他の授業でも火打山のライチョウの生息環境調査や妙高市の獣害対策の視察、生物標本の作成を行い、3年次には卒業研究にも力を入れていきます。卒業研究のテーマは様々で、これまで妙高市のため池群での水生生物の分布パターン、笹ヶ峰高原の外来植物相（写真2）、タヌキの食性等が調べられました。今年も多様な生物研究が実践される予定です。これらの成果をできるだけ学術論文等にして、少しでも地域の生物情報の充実に繋げられるよう私も努力しているところです。



写真2. 卒業研究で調べる笹ヶ峰高原の外来植物相



写真1. 授業「野生生物調査」での水生生物調査の様子

8・9月のプログラムのご案内

☆みんなで楽しく自然体験！ ご家族向け野外活動プログラム

「昆虫観察会」 8月28日（土）9：00～12：00

バッタなどの草地に棲む昆虫を採取して観察します。

講師：鈴木誠治 氏（昆虫はかせネットワーク）

会場：巴ヶ丘自然公園（長岡市来迎寺甲816）

募集：お子様とご家族20名

参加費：¥300（当会会員¥200）

申込締切：8月25日（水）

☆自然の知識をさらに深めたい方に 大人向け座学プログラム 里山自然教室

会場：こしじ水と緑の会・緑の家（長岡市朝日595-5）

募集：自然に興味のある方15名（中学生以上）／参加費：¥300（当会会員¥200）

①「秋の草花」 9月4日（土）10：30～12：00

講師：櫻井幸枝 氏（長岡市立科学博物館学芸員）

申込締切：9月1日（水）

②「里山・里川の生きもの」 9月4日（土）13：00～14：30

講師：井上信夫 氏（生物多様性保全ネットワーク新潟）

申込締切：9月1日（水）

お申込

電話・FAX、メールなどで、事務局まで参加される方のお名前、連絡先をお知らせください。後日、事前のご案内をお送りいたします。

（電話・FAX：0258-92-5238 メール：info@koshiji.org）

※コロナウイルス感染予防のため、マスクの着用、手指の消毒などのご協力をお願いします。また、体調のすぐれない方、37.5℃以上の発熱のある方は参加をご遠慮ください。

※コロナウイルス感染拡大の状況により中止になる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

編集後記

コロナウイルスの影響で、2年連続で長岡花火が中止になりました。開催日までのワクワク感、そして長岡花火が終わった後の夏が終わってしまったような寂しい気持ちが懐かしい…。毎年恒例のそんな気持ちも、残念ながら今年はお預け。来年こそは夜空に大輪の花が咲きますように。(拓)

会員動向（2021年5月31日現在）

会員470（個人407、法人63）

引き続き、ご支援のほど宜しくお願い致します。

公益財団法人 **こしじ水と緑の会**

本誌は再生紙を使用しています
植物油インキを使用しています

〒949-5412 新潟県長岡市朝日595番地5 電話・FAX 0258-92-5238
HP <https://www.koshiji-nf.org> E-mail info@koshiji.org